



こうせんじ 香仙寺

基本データ 住所：常陸太田市松栄町 615

17 日(土)のみ

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ
15 時 30 分まで	○	○	○	×

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（香仙寺）】石窟であり横穴墓!?直牒洞をご紹介します！



香仙寺の来歴

ふぎょうさんしょうごんいん

不軽山莊 嚴院と称する浄土宗の寺院です。開基帳によると、永享 4 年（1432）に常福寺（那珂市瓜連）三世明誉上人によって開かれました。

香仙寺の指定文化財

○ 直牒洞の石仏 県指定文化財（昭和 45 年 9 月 28 日指定）

香仙寺東側の山腹に奥行 11m の岩窟があり、その中央の奥室後壁に、阿弥陀三尊像が彫られています。阿弥陀如来坐像を中央に、右側に観音菩薩立像、左側に勢至菩薩立像が刻まれており、平安時代後期に作られたものと推定されます。旧瓜連町（現那珂市）常福寺第 2 世了誉聖りょうよしやうげい 岡上人が、常福寺の類焼や佐竹の兵乱をのがれるために嘉慶 2 年（1388）から應永 3 年（1396）までの間この洞窟にこもり「決疑鈔直牒」10 巻を著したと伝えられており、これが直牒洞の名前の由来になっていると考えられます。

平成 28 年度には直牒洞の測量調査が行われ、中央窟の左右壁面に灯明等の照明器具が置かれていた可能性のある穴の存在が確認されました。

今回の一般公開では、阿弥陀三尊が照らし出された状態をご覧いただけます。



○ 香仙寺のシイ 県指定文化財（昭和 46 年 1 月 28 日指定）

根本周囲約 12m、目通り周囲約 9.5m、樹高約 25m、推定樹齢約 600 年で、シイとしては県内有数の巨樹です。了誉上人は直牒洞にこもり著述 10 年、その間食糧として、柿・椎の実を食したと伝えられ、その椎の木が現存しています。